

留学生は何に困難を感じているか —2003年度前期アンケート調査から—

藤井 桂子・門倉 正美

【キーワード】 留学生支援、アンケート調査、留学生生活の困難点、大学寮の入居基準、私費留学生

要旨 本学の留学生が留学生生活をおくる中で、何に困難を感じているかを調べるため、2003年6月から7月にかけてアンケート調査を行った。その結果以下のようなことが明らかになった。

1. 留学生が最も困難を感じているのは経済的な問題である。住居、学習、アルバイト等についても経済的な問題との関連で、問題となっているものが多い。
2. 経済的なことについては、特に奨学金を受けられないこと、授業料免除を受けられないことに、困難を感じている。また、これらの選考基準が不明確だと感じている学生がいる。
3. 住居に関しては、経済的な問題とも関係して、家賃が高いこと、寮になかなか入れないことが問題となっている。寮に関しては、国費留学生等優先の入居基準に不満を感じている学生がいる。
4. 学習に関しては、アルバイトのため十分学習の時間がとれないことを悩んでいる学生が多い。
5. 精神的に不安定な状態にしていると感じている留学生が3割近くいる。
6. 学部留学生は、研究生、大学院留学生と比べ、さまざまな事柄について困難を感じている学生の割合が高い。

1. はじめに

2002年10月に本学の国際交流委員会に設置された留学生支援方策検討専門小委員会（以下「支援小委員会」と略記する）では、留学生支援を検討していくための基礎資料収集のひとつとして「留学生が困っていることについてのアンケート」を実施した。支援小委員会のメンバー〔注1〕の多くは、各部局において留学生の相談の窓口になっており、これまでも日ごろの活動等

を通じてそれぞれが把握している問題点等をもとに留学生への支援について検討を行って来ているが、実態をよりの確につかむために、アンケートを実施することが必要であると考えたためである。

今回のアンケートでは、回答すること自体が留学生の負担にならないように、留学生が今現在、どんなことについて困難を感じているかに焦点を絞り、調査を行うことにした。質問項目を支援小委員会で検討の上、自由記述のスペースを含めA4裏表に収まるようアンケートを作成した。アンケートは、まず、おおまかな項目を10項目取り上げ、その困難の程度を尋ね、そののち、それぞれの項目について、何が問題になっているかを問う構成となっている。各項目の後ろとアンケート用紙の最後に自由に意見が書ける記述スペースを設けた（アンケートの内容については、末尾の資料参照）[注2]。

本稿では、このアンケート調査の結果をもとに、留学生が現在どんなことさらに困難を感じながら留学生活を送っているか、その現状と問題点についてあきらかにしていきたい。

2. 調査の実施と回答状況

アンケート調査は、2003年6月から7月にかけて行った。支援小委員会の各部局の委員を通じて、各部局においてアンケート用紙の配付（メールによる配付を含む）および回収を行ったほか、留学生センターの授業、およびセンター内ロビー等において、アンケートの配付と回収を行った。

アンケート回収総数は245である。全留学生数に対する回答数の割合は、29%（245人／857人）である。回答者の内訳は、学部生94名、大学院生101名、研究生32名、その他（教員研修生等）18名である。奨学金に関して見ると、文部科学省奨学金（72名）、民間奨学金（15名）、奨学金なし（100名）、無回答（55名）となっている[注3]。奨学金について身分別に構成比（文部科学省奨学金、民間奨学金、奨学金なし、無回答の順）を見ると、学部生（35%、4%、44%、17%）、大学院生（28%、8%、41%、23%）、研究生（19%、6%、53%、22%）であった。

3. アンケート調査の結果

3. 1 質問項目と困難度について

アンケートではまず「あなたが横浜国立大学で学んだり、生活したりする

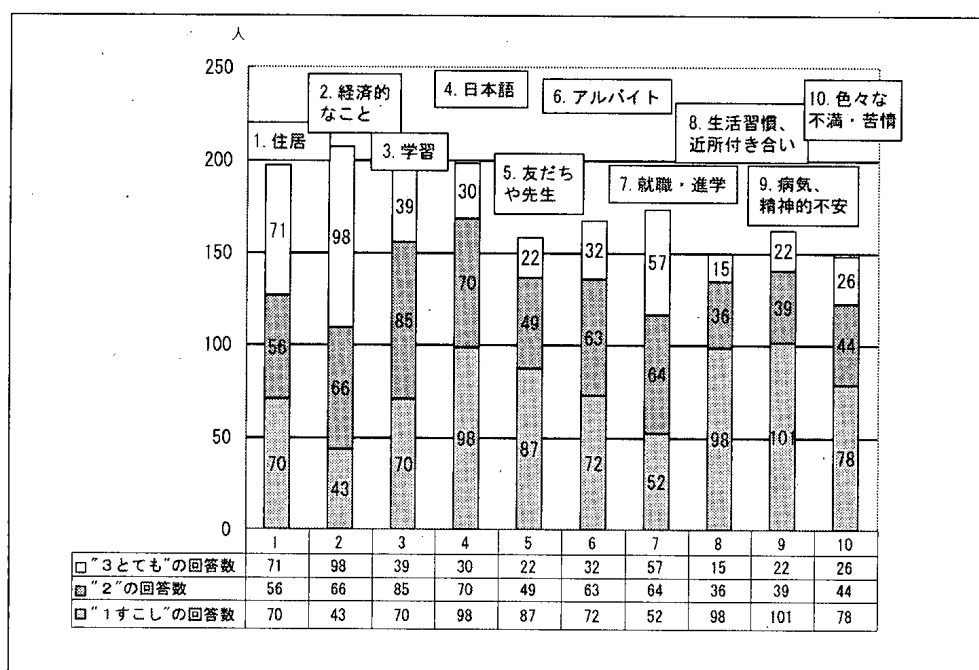
ときに、困っていること、相談したいこと、助けてほしいことは何ですか。」という質問を設け、以下11の項目について「1. 少し困っている」、「2. 困っている」、「3. 少し困っている」の段階を示し、当てはまるものに○をつけてもらった。

<質問項目>

A-1. 住居のこと（アパート、寮などの問題）

2. 経済的なこと（お金のこと）
3. 学習にかんすること
4. 日本語のこと
5. 友だちや先生との人間関係のこと
6. アルバイトのこと
7. 就職・進学のこと
8. 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど
9. 病気、精神的な不安など
10. いろいろな不満・苦情など
11. その他（ ）

これらの項目に対して、以下のA1のグラフのような結果が得られた。



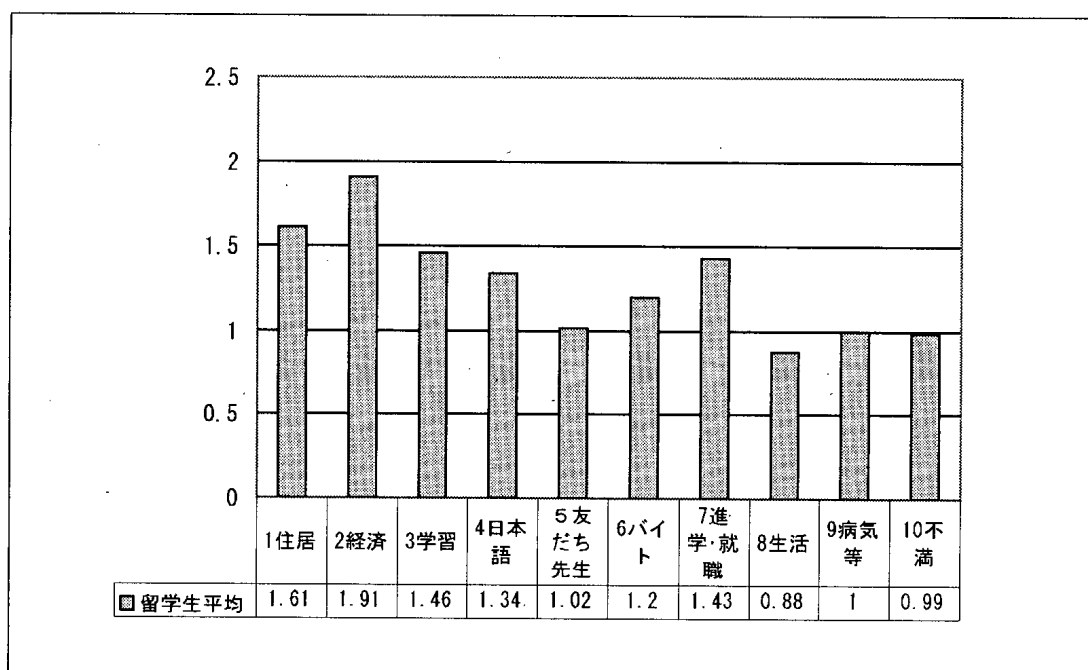
A1 留学生が困っていること

すべての項目（「11. その他」を除く）について、困っているという回答をした（1か2か3に○をつけている）学生が相当の数にのぼることがわかる。項目のうち最も少ないもので、約61%、多いものでは約84%の学生が困っていると回答している。全体で、総数が最も多かったのは、「経済的なこと」についてである。245人中、合わせて207人（84%）の留学生在が困っている事柄としてこれをあげている。2番目は、「日本語のこと（198人）」、3番目が「住居のこと（197人）」、4番目が「学習に関すること（194人）」となっている。

この中で、「とても困っている」という回答に注目してみると、経済的なこと（98人）と住居（71人）に関する数字が他と比べて、大きいことがわかる。このことは、経済的な問題と住居に関する問題が留学生にとって、深刻度の高いものとなっていることを示していると言えよう。これらに比べ、日本語については、総数では2番目に大きいものの、「とても困っている」は、30人に留まり、約半数の98人は、「少し困っている」をマークしている。このことは、日本語については現在困難を感じている学生は多いが、深刻度という点では、全体的に見れば経済的なことや住居の問題ほどにはとらえていないことを示していると考えられる。一方、進路（就職・進学）については、全体の総数では173人で、5番目に位置するが、「とても困っている」という回答数について見ると経済、住居の問題に次いで、3番目（57人）となる。就職・進学について大きな困難を感じている留学生在が少なくないことが分かる。

また、学習に関しては、「とても困っている」と答えている学生数は39人であるが、「困っている」と答えている数は85であり、「少し困っている」の70人を上回っている。日本語の場合よりも深刻に考えている学生が多いと言えよう。

このように困難さの度合いをみるために、「少し困っている」の回答を1点、「困っている」の回答を2点、「とても困っている」の回答を3点として、各項目の合計点を出し回答者数245で割って点数化したものが、A2のグラフである。

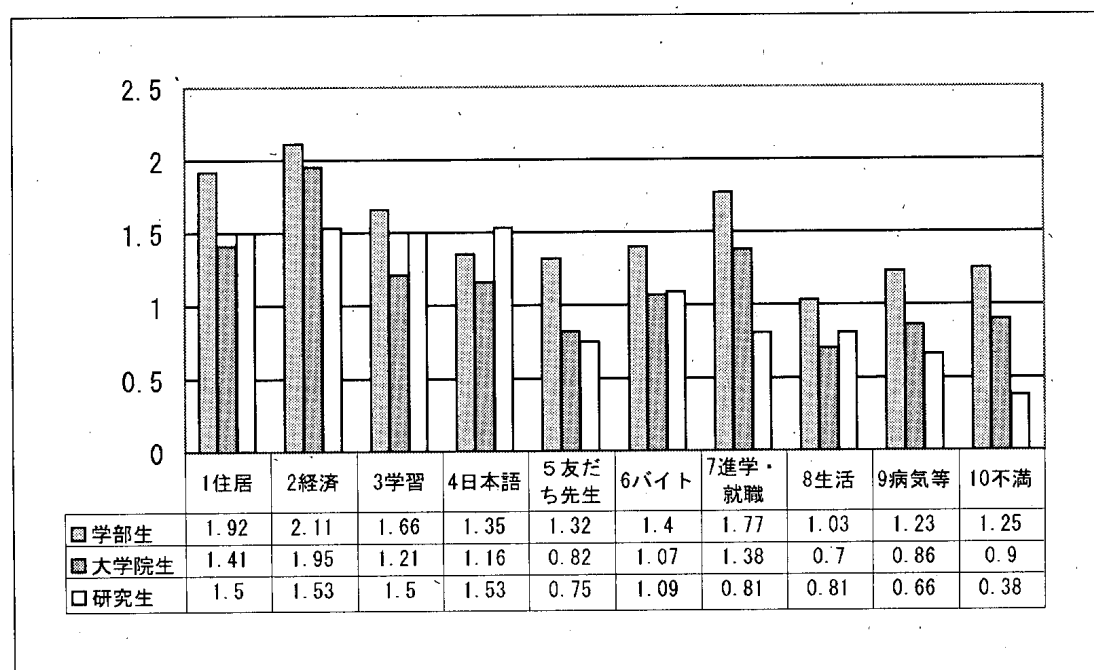


A2 困難度（留学生平均）

この点数を困難度としてとらえるならば、留学生にとっては、経済的な問題、住居の問題が大きく、次いで、学習に関する問題、進路（就職・進学）に関する問題があり、日本語の問題がさらに続いていることが見てとれる。

次に学部生、研究生、大学院生について平均の数値を出し比較したのが、A3のグラフである。どの項目についても学部生の数値がグラフA2の平均値より高くなっていることがわかる。学部生の場合日本人と同等の日本語の能力が授業でも求められていること、日本での滞在の期間が長くなる（入学するまでに2年近い月日を日本での日本語学習に費やしている学生も多く、入学後も最低4年間は日本に滞在することになる）ため、当面の蓄えだけでは生活が続かないことなど、卒業するまでに立ち向かうべきことがらの範囲も広く、したがってどの事柄についても困難を感じている学生が多くなっているのではないだろうか。一方研究生は、平均値より低い項目が多い中、「学習について」と「日本語について」の数値が平均値を越えており、正規生（学部生と大学院生）に比べると両者について困難を感じている学生の割合が高いことがわかる。また、研究生は奨学金を受けている割合が正規生より低いにもかかわらず、経済的な問題についての数値は正規生より低い。これは、在籍年数が短いこととも関係しているものと考えられる。大学院生においては、経済的なことについての数値以外はどの項目も平均値を下回り、研

究生の数値より低いものも多い。日本語についての数値は学部生、研究生と比べ、低い。これは大学院生の日本語の能力が十分であるというより、専門の研究においては、学部生に求められるような日本語の能力を必要としない場合もあるため、困難度が低くなっていると考えられる。進学と就職については、研究生の数値が低い。進学という目標が定まっているためであろう。



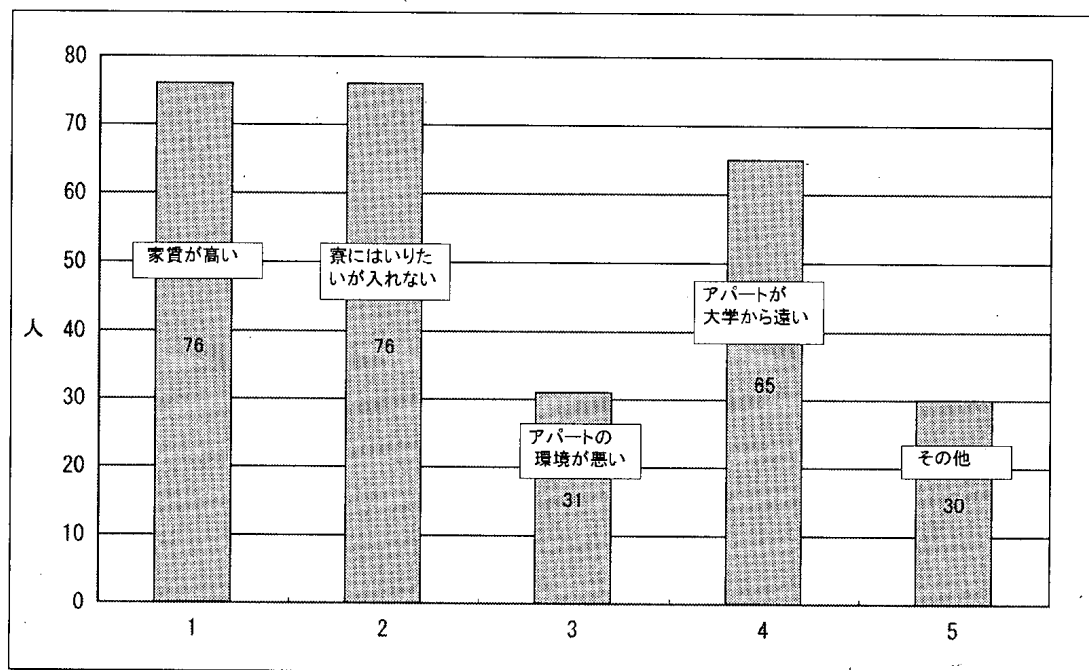
A3 困難度 (学部生・大学院生・研究生)

以下では、各項目について、留学生が具体的にどんなことを困難と感じているかについての回答結果を、順を追って見ていきたい。

3. 3 留学生の抱える困難点

3. 3. 1 住居について

住居の問題についてはグラフB1のような回答を得た。「家賃が高い」と「寮に入りたいが入れない」をマークした学生がそれぞれ76人で、全体の31%。ついで、「アパートが大学から遠い」が65人で、27%である。「アパートの環境が悪い」は31人で、13%である。



B1 住居のこと

住居の問題は経済的な問題と密接に関わっているものも多い。寮を希望する場合、いくつかの理由が考えられるが、来日したばかりの留学生を除いては、寮の家賃が民間アパートに比べはるかに安い点がまず最大の理由となっていると考えられる。アパートが遠いというものも、経済的な理由から大学のそばのアパートを借りることが難しいために生じている結果である場合も多いに違いない。アパートの環境の悪さについても、経済的な理由から、悪い条件に甘んじなければならない場合も多いと考えられる。環境が悪い点として具体的にあげられていたのは、汚い、狭い、買い物が不便、うるさい、交通が不便等で、5件の記述があった。大学寮についても寮のルールが厳しい、寮が大学から遠いという不満の記述（8件）が見られた。他の問題としては、保証人を捜すのが困難であること（1件）、外国人であるという理由で断られることがあること（3件）などがあげられている。住宅の問題に関連しては、これらのほか以下のようなことがらについて記述が見られた。（カッコ内数字は件数、なお、記述の文については、紙面の都合等により、文体の修正、省略等をおこなっているものがある）

- ・ 寮の入居制度に不満である 10件（寮の入居制度が不健全。9回抽選に外れ、抽選の話を聞くだけで具合が悪くなる／くじ引きで寮に入れることが理解できな

い。お金に困っていない国費留学生を2年間も優先でいれるべきではない／寮に関して、たくさんの部屋は国費留学生にとられている。ほかの人は住む機会がない。国費の留学生も抽選によって決めるべきだと思う／弘明寺の寮になかなか私費留学生が入れない／ほとんどの新入生が寮に入れないが、それは大変不便なことだと思っている／寮の数が学部生に対してほんの少ししかない／もっと長くすみたい他)

- ・ 寮に住みたい 3件 (学校の一番近い寮にずっと住みたいけれど、実状況もわかるけど、この問題について助けてくださればほんとうにうれしくてたまらないと思う／峰沢寮にどうしてもはいりたい等)
- ・ 寮を出てからが不安である 2件 (来年大学院に入ったらバйдやる時間があまりない。今は寮にすんでいるからいいが、来年くじびきで落ちたら生活費と学費とほんとうにどのように解決するか困る)

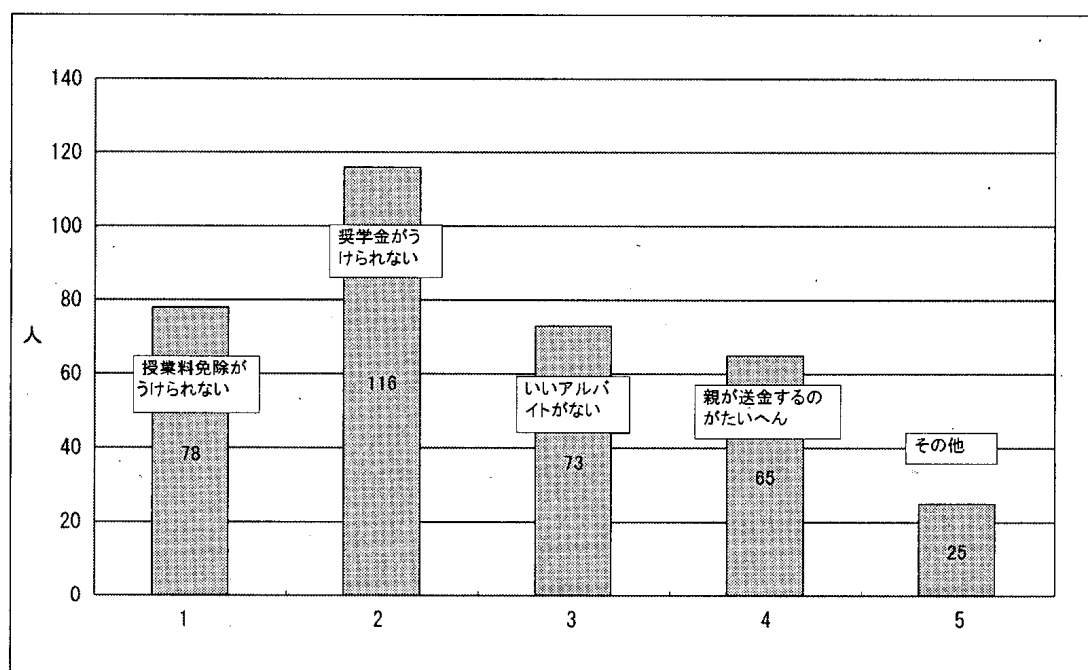
保証人の問題に関しては、2002年4月から、大学の機関保証制度が実現し状況は改善されているが、不動産屋、大家さんによっては、機関保証制度を受け入れないところもある。制度についての周知や留学生に好意的な不動産業者の情報等の提供につとめているが、今後、業者への積極的な働きかけも必要となろう。

寮に関しては、寮の環境に対する不満もさることながら、そもそも入居できないことに対する不満の記述が深刻に思われる。これまで大学の寮では、国費留学生や短期留学生、英語プログラム等の留学生を優先的に入居させ、最大2年間の入居期間を設定している。国立大学で2年間の入居期間を認めているのは、本学を含め2大学だけである。この数年は優先入居対象の留学生の増加および、留学生総数の増加のため、私費留学生が寮に入居できるチャンスが極めて少なくなっている。私費留学生にとっては、寮に入れるかどうかは、経済的な問題として留学生活に大きく影響する。授業免除、奨学金の給付状況の悪化と相まって、国費等の留学生と私費留学生の生活状況の格差がいっそう拡大してきており、不公平感がいっそう強くなっているのではないかと危惧される。私費の留学生から、こうした状況に対して不満が出るのはもっともなことであろう。

この状況を改善するために、2003年度の国際交流委員会ではワーキンググループを立ち上げ、入居期間を中心とする入居基準の見直しが検討された。国費留学生等を従来通り優先すべきであるという意見もあるが、900人に迫

る留学生を抱え国際化を謳う本学にあってその約75%を占める私費留学生が、留学の成果をあげ、本学に留学したことを誇りに思っ集立っていけるような環境作りは欠かせないものであると考える。ワーキンググループでは、例外はあるものの原則的には、2004年度4月から、入居期間を1年とすること、渡日したばかりの留学生を優先させることが提案事項として決定され、国際交流委員会でも了承された。

3. 3. 2 経済的なことについて



B2 経済的なこと

B2のグラフに見られるように経済的な問題として留学生があげている中で最も多いのが、「奨学金が受けられない」という項目である。116人、回答者全体の47%が奨学金についてマークしている。これはアンケートのすべての項目を通じて最も高い数値である。2番目に多いのは「授業料免除が受けられない」の78人である。回答者の中には、国費留学生等が含まれているので、私費留学生についてみれば、その割合はもっと高くなるものと考えられる。経済的な問題については、以下のような事柄について記述があった。

- ・ 経済的に苦しい 25件（物価が高い／奨学金がもらえない／授業料免除が受け

られない／半額しか免除にならない／授業料を払うお金がない／ゼミの合宿費が高すぎる／勉強のためアルバイト減らしたいが生活できない／留学生にとって一番重要なことは金だと思う・・・等)

- ・奨学金(数、金額)少ない 6件(奨学金の数が奨学金を必要としている留学生と比べて少ないと思う／申し込んでもなかなかもらえない／奨学金がだんだん低くなった)
- ・アルバイトがない 5件(外国人はだめといわれている店おおい／家族がいるので生活費や教育費が増し、アルバイトをしたいがなかなかみつからない等)

奨学金に関しては、公的なもの民間のものを合わせても限られた学生しか受け取ることができないのが現状である。留学生数の増加の影響もあり、奨学金を手にする学生の割合も減少してきており、私費留学生にとっては厳しい状況となっている。

また、授業料の免除に関しても、日本人学生を含む全学生に対して免除実施可能額の割合が年度ごとに決まっているが、その割合が減少していることに加えて、ここ数年留学生数の増加や、日本経済の悪化による申請者の増加等により、半額免除を増やすといった措置はとられているものの免除が受けられる留学生の割合は減少している。授業料が払えずに除籍となった留学生の話も耳にするようになった。

留学生の間にも、授業料免除がもっと行き渡っていた数年前とは異なり、状況が厳しくなっていることへの理解が広まりつつあるとは思いますが、大学としても、現在実現に向かっている大学寮の入居基準の見直しや、留学生への貸付制度の検討、あるいは学内でのアルバイトの機会の創出への努力などを進めていく必要があるだろう。横浜は地域的には、アルバイトを捜す上で、恵まれていると考えられるが、アンケート結果では、「いいアルバイトがない」と答えた留学生が73人あった。この数字が示しているように、不況下においては、アルバイトを見つけることは簡単ではないようである。自由記述にも書かれているように外国人ということではいっそう難しくなっている面もある。今後、経済的な問題は、今まで以上に私費留学生にとって深刻なものになっていく恐れがある。

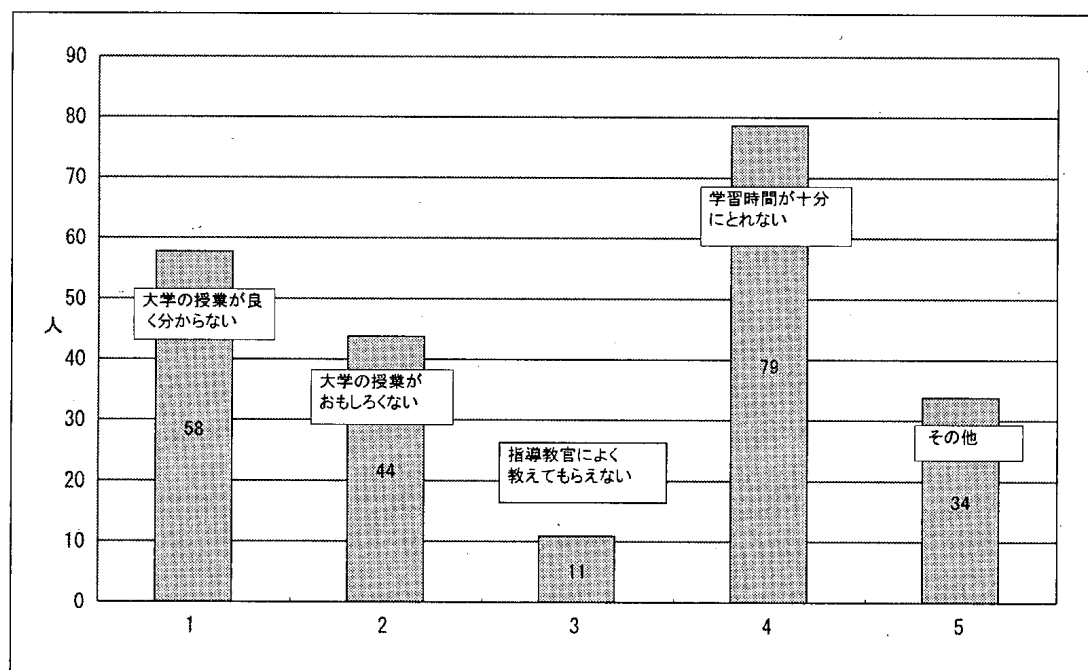
奨学金、授業料免除の問題は、留学生生活を揺るがすものともなるため、留学生達は、その審査に関しては非常に敏感になっている。自由記述には奨学

金、授業料免除に関して以下のようなコメントが見られた。

- ・ 奨学金・授業料免除の基準が不明確、公開すべき 11件（M1のときは免除なし、M2のときから半額だけ。それもありがたいが、M1のときから今まで1円も払わなかった学生もいる／明確な基準がわからない／奨学金もっと合理的にしてほしい／奨学金の学校からの一次の選択基準がよくわからない／各免除の基準がわからないから学校が信用できない／基準に疑問がある／奨学金制度が不透明に感じられる／基準を説明してほしい。そうしないと納得できない等）

奨学金や授業料免除については、受けられないことによって経済的な困難を感じるだけでなく、審査基準に対する不信感が、大学全体に対する不信感を生じさせている点が憂慮される。留学生が納得いくような説明や、基準の設定が強くもとめられていると言えよう。

3. 3. 3 学習に関すること



B3 学習にかんすること

学習に関しては、B3のグラフにあるように「学習時間が十分にとれない」が79人（32%）で最も大きい数値を示している。この数値は、アンケートの全項目の中で、2番目に高い。特に学部生の割合が高くなっている（学部生

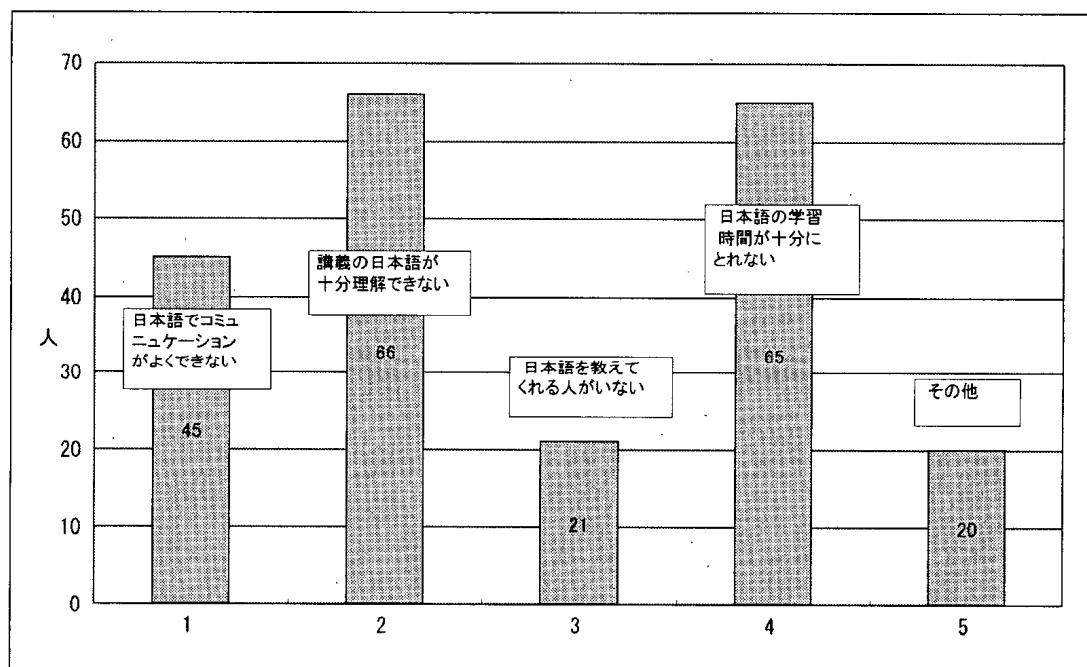
の約45%)。時間が十分とれないのは、生活費や学費を得るためのアルバイトに多くの時間を割かなければならないためである。自由記述部分にも学業とアルバイトの両立の困難さを訴えたものが8件あった。次に多いのは、「授業がよくわからない」で、58人である。目立つのは、このうち研究生が相対的に多い(13人)点である。回答した研究生の40%にあたる。次の「おもしろくない」の項目については、学部生の割合が高い点が特徴と言えよう。大学院生、研究生の数値は低い。「指導教官によく教えてもらえない」は11件であった。

自由記述においては、上述のもの他、次のようなものが見られた。

- ・ 日本語の能力が不十分 13件 (日本語まだへただから、専門を勉強するときちょっと難しい／日本語でコミュニケーションが十分でない／漢字が読めません、かけません／文が上手にかけない／日本人の大学生レベルの論文が書けない等／日本語がうまくいかないから生活もうまくいかない等)
- ・ 授業がわからない 4件 (専門の授業がよくわからない／授業がわからない／先生のお話がよく聞き取れない／授業は大分わかるけど、十分理解できない。)
- ・ 研究についての悩み (4件：自分の専攻の進め方がうまくいかない／自分の今のやりかたでいいかわからない／授業の方は大丈夫だが研究について困っている／研究に関する資料や情報の入手が難しい)
- ・ 専門が難しい 3件
- ・ その他：専門の本が買いたいが高すぎる／試験にまだ慣れていない／うちの研究室は人数が多いため先生はひとりひとりの学生に指導する時間がない／先生はいそがしすぎ等

3. 3. 4 日本語について

日本語については、「講義の日本語が十分理解できない」が66人、「日本語の学習時間が十分とれない」が65人であった。はじめに見たように、日本語について困っているという回答は198にも上るが、実際の大学生活の中では、日本語のニーズもまちまちであり、到達目標には至らないがなんとか凌いでいるという面も強いと考えられる。日本語の学習時間については、先の学習の項目と同様にアルバイトに時間がとられてしまうという場合のほか、専門の勉強や、研究活動が優先されるため、日本語の学習時間がないと感じているケースもあろう。学部生25人に対して、大学院生は32人マークしていた。



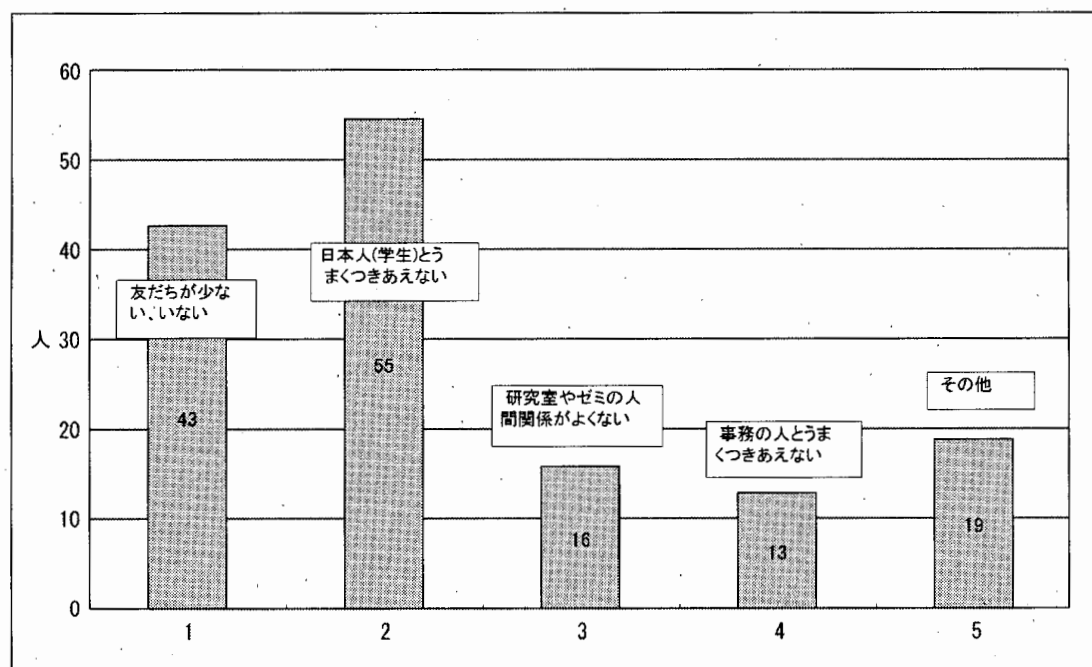
B4 日本語のこと

日本語に関する記述は以下のとおりである。

- ・ 日本語を話す相手がいない 2件（日本人学生と話せる機会が少ない等）
- ・ 日本人なみの日本語ができない 2件
- ・ 日本語クラスへの要望 2件（センターの中では中国語か英語しか話せない。日本語の授業にいる学生のレベルが全然違う／いつでも入れる日本語講座をひらいてほしい）
- ・ 専門用語が難しい 2件
- ・ うまく表現できない 2件（自分の思いや考えがうまくできない／自分の意見など表現しきれない）
- ・ その他：学習時間がない／レポートなどの英文和訳がむずかしい

日本語に対するニーズは多様化しており、個々の留学生が目標とするものも異なるであろうが、それぞれが目標と現状とのギャップに困難を感じていることが伺える。留学生センターでは、学部生の日本語教育を中心にカリキュラムの改革を試みているが、提供できる授業にも限界もある。チューター制度や、センター内の交流相談室（105室）等も利用して、留学生が個々の学習を進めることも期待したい。

3. 3. 5 人間関係について



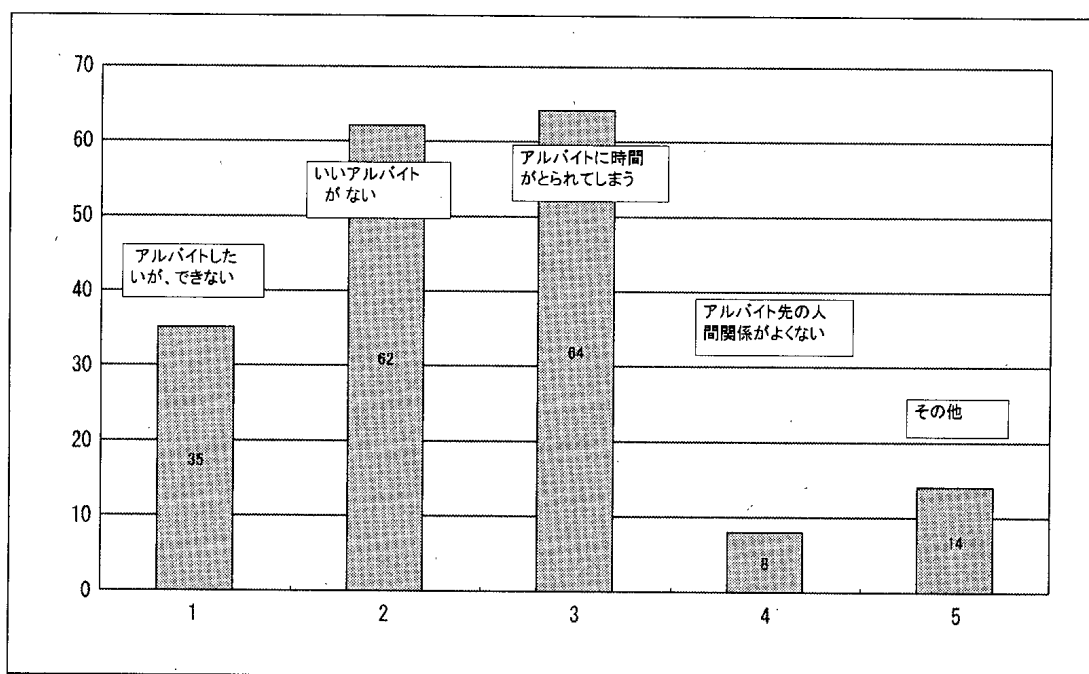
B5 友だちや先生との人間関係

人間関係について、もっとも多いのが「日本人（学生）とうまくつきあえない」の55人である。学部生が28人を占め、大学院生17人より多い。留学生の割合が高い当大学において、留学生と日本人との交流がうまくいかないという回答が多く見られるのは残念である。無関心によって交流がない場合もあると思われるが、双方に関心がありながら、うまくいかないこともある。私費留学生が経済的な事情からアルバイトをしながら何とか生活を送っているという状況を知らない日本人学生も多い。チューター制度があっても効果的に利用されていないケースも見られるようである。留学生センターでは、日本人学生と留学生が参加する「異文化間コミュニケーション論」等の授業の実施や、日本人学生と留学生をスタッフとする「交流・相談室（105室）」の設置などにより、両者の交流をはかっているが、大学内においては、ひとつの場に過ぎない。学内のいろいろな場面で、もっと交流の機会が広がることが求められているといえよう。さらにまた、学外のボランティアグループとの交流や、ホームステイプログラムなどの開拓も進めていく必要があるだろう。記述部分では、以下のようなコメントが見られた。

- ・日本人ともっとつきあいたい 5件（深くまでつきあうことが難しいと思う。どのようにこの壁を乗り越えるか悩んでいます／日本人の友だちが少ない他）
- ・先生が留学生の状況を十分理解していない 4件
- ・関係うまくいっている 4件
- ・先生との交流が少ない 2件

研究室やゼミでの人間関係についての問題点は、回答のグラフに現れた数値はそれほど多くない。しかし、自由記述部分からは、問題がある場合は深刻度が高い可能性があることがうかがえる。

3. 3. 6 アルバイトについて



B6 アルバイトのこと

アルバイトについての問題では、「アルバイトに時間をとられてしまう」の64人が一番多い。学習に関する項目で学習時間が十分とれないに79人がマークしていたが、生活のことを考えるとアルバイトを優先せざるをえず、学習時間の確保に悩んでいる留学生の実態がよく示されている。アルバイトと学業の両立は私費留学生にとっては大きな課題であることがわかる。

次に多いのが「いいアルバイトがない」で62人である。これについては経済的なことの項目にも同じものがあり、そこでも73人がそれにマークしてい

たが、語学教師といった効率のよいアルバイトが見つけれないというだけでなく、仕事を捜すこと自体が容易でない状況を反映しているといえよう。「アルバイトしたいができない」という回答は35人だが、これには、仕事が捜せないケースと、勉強に費やす時間が必要なためにアルバイトができない場合の両方の回答に含まれていると考えられる。記述部分には以下のようなものが見られた。

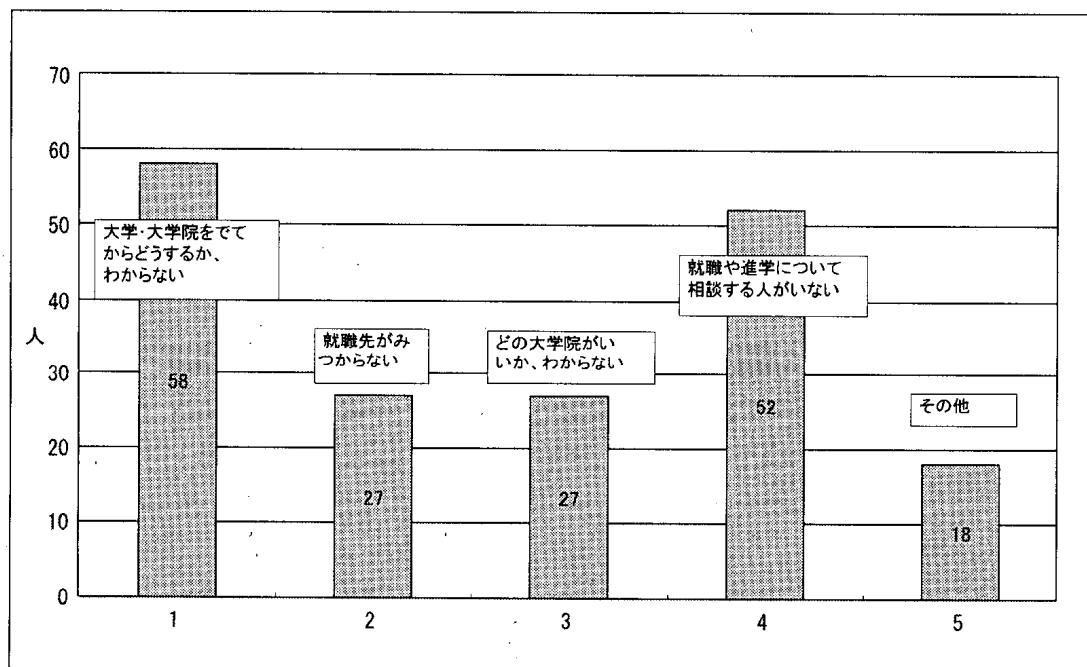
- ・ 学業とアルバイトの両立が困難 11件（アルバイトをしているからきちんと研究はうまくいかない。私自身が悪い／金がないのでバイトをしたいが時間がない／研究に迷惑かけないぐらいのアルバイトがしたい／今は寮に住んでいるからいいが、来年大学院に入ったらバイトやる時間があまりないから、生活費と学費ほんとうにどのように解決するか困っている。）
- ・ いいアルバイトがない 5件（外国語の先生になりたいけれどさがせない／高い時給のアルバイトをしたいけれど見つからない／学校でアルバイトがしたい等）
- ・ アルバイトがない 5件（外国人はだめといわれている店おおい／家族がいるので生活費や教育費が増し、アルバイトをしたいがなかなかみつからない等）
- ・ その他（国費の留学生だから考えない／アルバイトするのは楽しいと思う）

最後の記述にあるように、アルバイトを肯定的にとらえている留学生がいることも事実であるが、たとえ仕事の経験を積むことができたり、よい人間関係が築けたとしても、学業に当てる時間が削られることは学生にとってはマイナス点になっているといえよう。

3. 3. 7 就職・進学について

就職・進学の問題は、先にも述べたように、始めの設問に対する回答において「とても困っている」が、経済と住居の問題について3番目に多く、57人あった。就職や進学についての問題について深刻に悩んでいる学生が多くいることがわかる。

「大学・大学院を出てからどうするかわからない」の回答が58人あり最も多いのは、就職と進学の問題にまだ直面していない学生もいるためではないかと思われる。直面している留学生にとっては、深刻な問題であると考えられる。「就職や進学について相談する人がいない」と答えた留学生も52人いたが、このことも留学生の進路問題の困難度を高くしているといえよう。留



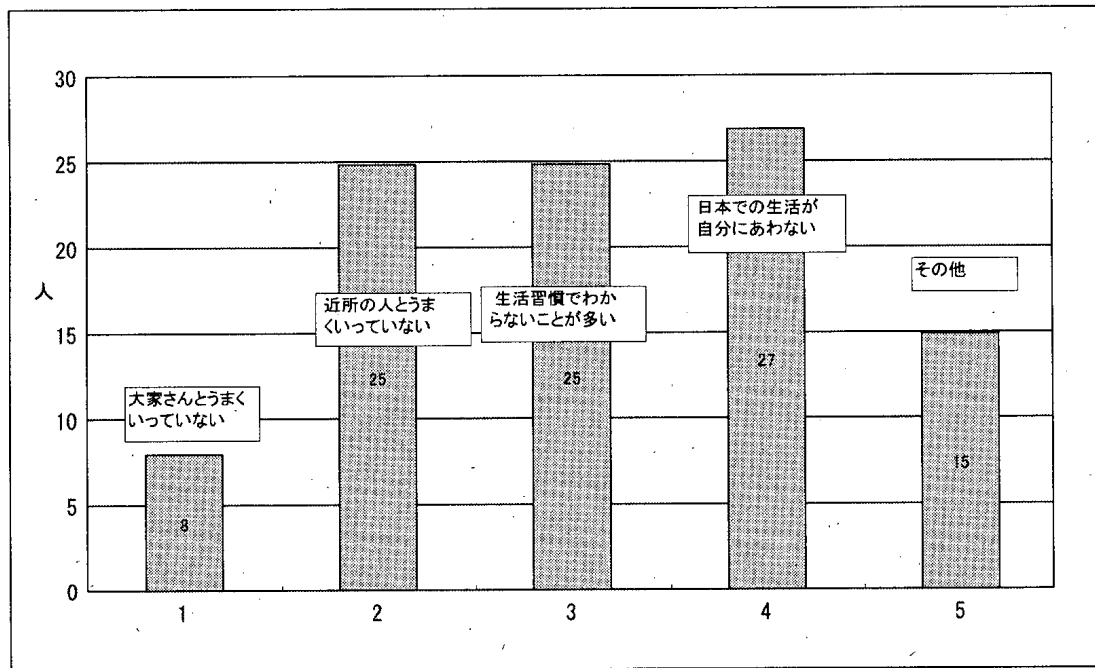
B7 就職・進学のこと

学生センターでは、2004年度に卒業留学生のネットワーク作りの一環として、在日の卒業留学生を大学に招いて第1回のホームカミングデイを開催した。卒業留学生からは、日本で働くことについて卒業生自身の経験を踏まえて話してもらい、在籍留学生との意見交換を行った。初めての試みであったが、今後こうしたネットワークが広がり、有効に利用されるようになることを期待したい。

以下は記述部分に書かれていた事柄である。

- ・ 進路について不安である、迷っている 8件（まだ考えていないがちょっと不安／これから就職先を捜すのですが、適当な職があるかどうか心配である／大学院へ行くために何を準備すべきかわからないほか）
- ・ 就職が厳しい 3件（会社をさがしているが、今までまだ決まらない等）
- ・ 相談する人がいない 2件（留学生の就職に関して、情報がないし相談する人もいない。日本企業のことをもっと知りたい。大変困っている／留学生が大学、大学院卒業後の進路について相談してくれる人がいればいいと思う。日本企業の留学生の扱い方について全く知らないので、就職活動の面接などで失敗する。大変困っている私たちは相談相手がほしい）
- ・ 情報がない 2件

3. 3. 8 生活習慣、大家さんや近所の人たちとのつきあいなどについて

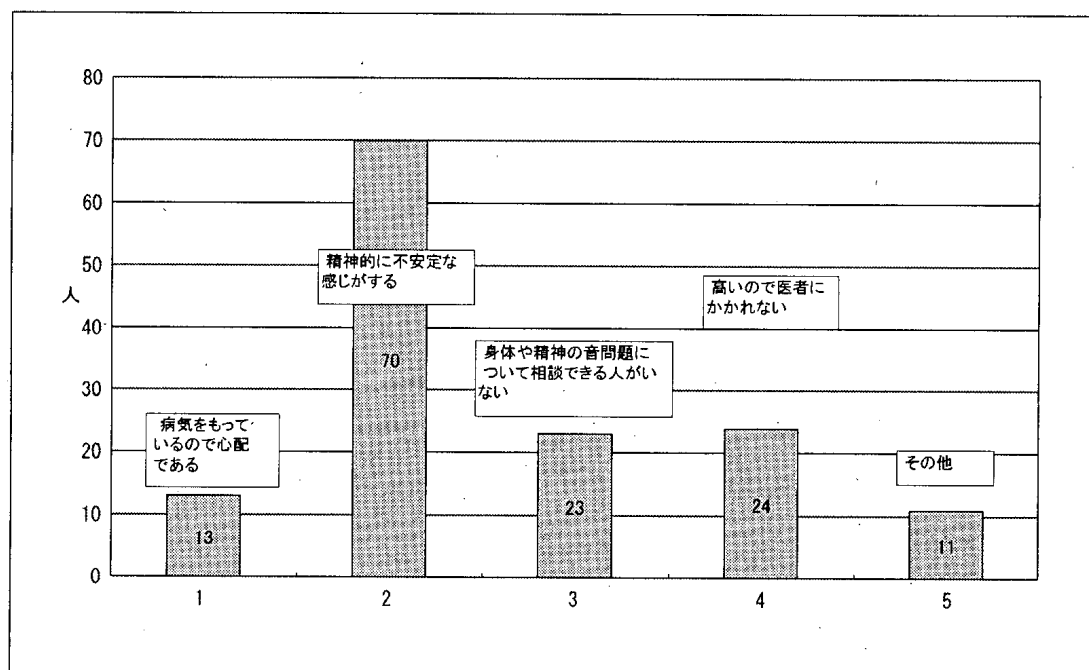


B8 生活習慣、大屋さん、近所との付き合い

この項目は質問したものの中では、困難度数においては最も低かった。その理由としては、ひとつには実際、深刻な問題がそれほど多く起こってはいないということ、もうひとつには、近隣の日本人との交流や接触自体があまりないことがあげられよう。記述の部分にも肯定的なコメントが4件、つきあがないというコメントが3件見られた。アルバイトや研究活動で、近所の人とつきあう時間がない留学生も多いと考えられる。しかし、**困難度が低い**といっても全体では149人の留学生が困っていると記しており、上のグラフでは、具体的に「近所の人とうまくいっていない」が25人、「大家さんとうまくいっていない」が8人あり、気になるところである。「生活習慣でわからないことがある」や「日本での生活が自分にあわない」などは、大学でチューターに尋ねたり、留学生担当教官に相談したりする余地があると思われるが、実際のところ留学生センターでの相談担当者には、こうした生活の問題を持ってくる学生はあまりいない。経済的な問題や住宅の問題の影に隠れてはいるが、事態が深刻にならないよう注意を要する問題であるといえよう。記述部分には、以下のようなものがあつた。

- ・ 肯定的なコメント 4件（日本での生活がおもしろい／日本の生活習慣はもう慣れている。まわりの人は本当にやさしいし、熱心な人だと思う／まわりの人とのつきあいに対しては大丈夫等）
- ・ まわりとのつきあいはない 3件（大家や近所の人たちとはほとんど会えない／アルバイトを終わったら深夜になった。大家さんや近所の人たちと付き合う時間がとれない等）
- ・ 騒音問題 3件（二階に住んでいる人がとてもうるさいが、文句をいったらいいかどうかわからない等）
- ・ その他（ヨーロッパ人とアメリカ人など大家さんと日本人にとって人気らしい。ほかの人は人間ではないのか）

3・3・9 病気、精神的不安などについて



B9 病気、精神的不安など

まず、注目したいのは、70人の留学生、回答者の約30%が「精神的に不安定な感じがする」をマークしている点である。学部生が35人、大学院生23人、研究生8人である。学部生は学部生回答者の37%にあたり、割合が高い。メンタルな問題で保健管理センターを尋ねたりカウンセリングを受けたりする留学生は 氷山の一角に過ぎないという話を聞いているが、精神的に不安定な状況を自覚している留学生が相当数いるという実態がこの数値に示されて

いることになる。留学生センター内の週1回の心理カウンセラーによる相談活動でも深刻な相談は一部に過ぎないが、留学生と身近に接触する大学の教職員は、彼らが重篤な状態に陥らないよう日ごろから十分注意を払う必要あると感ずる。相談相手については「いない」という回答は23であった。

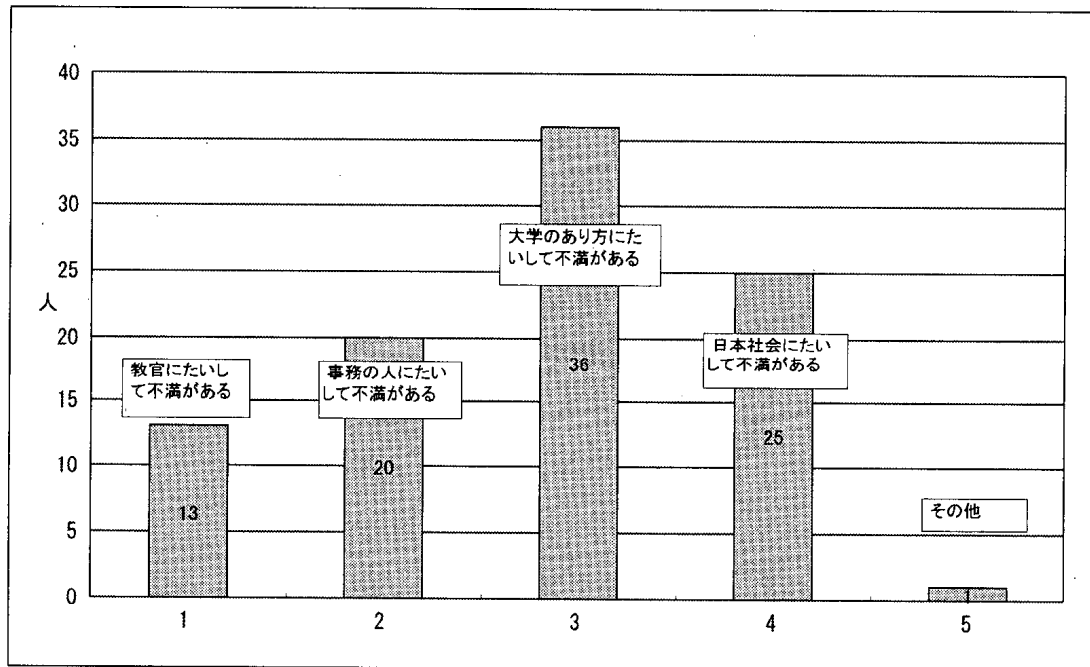
「高いので医者にかかれない」は24人いる。留学生のためには、国民健康保険とあわせれば支払いが全体の6%ですむ医療費補助制度があり、新入留学生を対象としたオリエンテーションでは、資料の配付とともに説明が行われているが、情報が必ずしも行き渡ってはいないようである。24人の中には、制度をよく知らないという留学生が含まれているのではないかとと思われる。病院へ行く留学生数が多いわけではないため、**医療費補助制度についての情報はあまり知られていないおそれがある**。以下は記述部分のコメントである。

- ・ 病気への心配等 7件（病気になったら大変だと思う。勉強できないし、お金がかかる／自信がない／休みがない／ストレスを解消できる場がない／体質が弱いので勉強だけでせいっぱい／あまり病気がないので心配等）
- ・ 現在調子がよくない 2件（よく病気にかかる／住むことやお金や授業や研究やバイトなど毎日考えている。眠る時間は少ない。精神的に不安定になった）

3. 3. 10 いろいろな不満・苦情について

教官、事務官、大学、社会に対する不満のうち、もっとも多いのは、**大学に対する不満で36件**である。たとえば大学寮の入居基準に対する不満や、奨学金制度、授業料の免除制度に対する不満など制度に対する不満がここに入るとと思われる。事務の人に対する不満が20件である。銀行の窓口やデパートなどに比べれば、国立大学の事務や役所の対応は一般的に見て、そっけない面があると思われる。日本人であれば気にならない対応でも、留学生によっては留学生だから、何々人だから不親切にされるといった誤解をする場合もあるので、留学生に接する教職員は、誤解を与えないような配慮を行う必要があると思われる。教官に対する不満は13件。指導教官とどうしてもうまくいかないような場合には、なんらかの方法によって、指導教官の変更が可能なシステムが必要なのではないだろうか。以下に示した自由記述部分のコメントでは、留学生たちが日頃の留學生活で感じている不満が率直に吐露されている。

- ・ 留学生センターを除いて、親切にしなくても結構ですが、学生がオフィスに入っ



B10 いろいろな不満、苦情など

てきたら顔をそちらへ向けるようにしてください。声をかけても無視される。「親方日の丸」っていうのは国大で実感しました。

- ・ チューターのことについて。日本の生活に慣れるのを手伝うためにいると思うが、何も役に立たない。しかもチューターの顔を1年も見ていなかったこともある。チューターというのは自分の国の人にやってもらったほうがもっといいと思う。日本人って留学生の大変なことを知らないからまともに助けられない。たとえば、奨学金や授業料の免除さえ知らないものだから、ほとんど日本人のチューターは役に立たない。
- ・ 3年生でも4年生でもチューターをつけてもらいたい。チューターは勉強だけでなく、いろいろな相談ができる。先輩と十分交流しないと多くのことは勉強できない。先輩と会うチャンスがないからチューターをつけてもらえば少なくとも会う機会が増える。
- ・ 日本人は外国人が怖い。
- ・ 留学生センターはなぜ午前中だけなのか。学生の立場はぜんぜん考えていない。不満である。他の大学ではちゃんと午後までやっている。あまりにもカッテである。このアンケート用紙もそうであるが、必要なときだけ意見をきくのではなく、常に学生の立場を考慮すべきだ。
- ・ 事務室に英語ができる人がほとんどいない。
- ・ 日本人は下の国をよく見てほしい。ほかの国の生活は日本のと違う。
- ・ 交通がとても不便です。

- ・ 留学生が多いのは横国大の特徴のひとつといわれているのに、留学生に対して関心と理解がすくないのではないか。私たちは遠くからせっかく来たけど、日本人が冷たいのを感じる。
- ・ 日本ではいろいろな手続きが不便だし形式的。
- ・ 全部の食堂に対して不満メニューはかわらない。
- ・ 日本社会の人々がやはり国際親善のマスクをかぶっているが、やはり外人を差別している気がする。
- ・ 年が高くてこどももいる。こどもの教育が難しい。
- ・ 掲示物を英文で表記してほしい。
- ・ 蒸し暑い天気はすみにくい。大学の授業は長くてわかりにくい。自分の勉強は足りない気がする。

4. まとめ

以上、アンケートの結果を見てきたが、これらをまとめると以下のようなことが言える。まず、留学生が最も困難を感じているのは経済的な問題である。住居、学習、アルバイト等についても経済的なことがらとの関連で問題となっているものが多い。

経済的なこととしては、特に、奨学金を受けられないこと、授業料免除を受けられないことに、困難を感じている。また、これらの選考基準が不明確であると感じている学生がいる。住居に関しては、経済的な問題とも関係して、家賃が高いこと、寮になかなか入れないことが問題となっており、寮については、国費留学生等優先の入居基準に不満を感じている学生がいる。

学習については、アルバイトのため十分学習の時間がとれないことを悩んでいる学生が多い。精神的に不安定な状態にいると感じている留学生が3割近くいる点も見逃せない。

全般的に見て、学部留学生は、研究生、大学院留学生と比べ、様々なことがらについて困難を感じている学生の割合が高い。

5. おわりに

アンケートの回答の中には誤解にもとづくコメントと思われるものや、無理な注文と思われるものもある。しかし、留学生の率直な意見を知ることは、支援を考える上で重要である。困ったことについてのアンケートだったが、肯定的なコメントもいくつか見られた。回答数の割合は全体からみると高く

ないかもしれないが、245という回答は少ない数ではないので、このアンケートにより留学生が何に困難を感じているかについての実態がある程度把握できたと考える。支援小委員会ではこの結果を利用して留学生支援の検討を進める予定であるが、同時に、留学生に関わる教職員にもこの内容を理解・共有してもらい、留学生への理解と支援の輪を広げていければ幸いである。

注

- 1 支援小委員会は、教育人間科学部、経済学部、経営学部、国際社会研究科の留学生専門教育教官各1名、工学府留学生委員会委員長、環境学府の留学生担当教官、保健管理センター教官、各1名、留学生センター教官2名、計9名によって構成されている。
- 2 アンケートは、できるだけ平易な日本語を用い、漢字にはすべてひらがなを付けた。今回は、英語プログラム等の留学に対しての英文のアンケートは作成していないが、これは英語プログラムには独自の支援体制があり、その検討については、プログラム自体にまずゆだねられるべきであると考えたためである。
- 3 文部科学省の奨学金を受けているとマークした学生の中には、いわゆる国費留学生のほか、学習奨励金（月額7.3万円（大学院生）、5.2万円（学部生））を受け取っている私費留学生が含まれているものと見られ、この数値は必ずしも国費留学生の数を示すものにはならなかった。無回答の学生は、回答の内容から見て、大部分が私費留学生であると推測される。

【資料】

留学生が困っていることについてのアンケート 2003年6月 留学生支援小委員会

○ このアンケートの目的は、留学生たちが困っていること、支援 (help) してほしいことの内容を知って、それらのことについて、できるだけ支援できる体制・システムをつくっていくことです。

あなたの身分： 学部生 年生 研究生 大学院生 M 年生 D 年生
JOY短期留学生 個別短期留学生 予備教育研修生 教員研修生
奨学金： 文部科学省奨学金 民間奨学金 なし

A あなたが横浜国立大学で学んだり、生活したりするときに、困っていること、相談したいこと、助けてほしいことは何ですか。下の項目の中から、いくつでも選んで、その数字にまる (○) をしてください。そして、困っている程度をあらわす数字にまるをしてください。3が「とても困っていること」、2は「困っていること」、1は「すこし困っていること」です。

	すこし	とても
1. 住居のこと (アパート、寮などの問題)	1	2 3
2. 経済的なこと (お金のこと)	1	2 3
3. 学習にかんすること	1	2 3
4. 日本語のこと	1	2 3
5. 友だちや先生との人間関係のこと	1	2 3
6. アルバイトのこと	1	2 3
7. 就職・進学のこと	1	2 3
8. 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど	1	2 3
9. 病気、精神的な不安など	1	2 3
10. いろいろな不満・苦情など	1	2 3
11. その他 ()	1	2 3

B 上の1～10の項目について、それぞれあてはまる数字すべてにまる (○) をしてください。「5. その他」をえらんだ人は、困っていることについて書いてください。

(1) 住居のこと

1. アパートの家賃が高い
2. 寮に入りたいが入れない
3. アパートの環境が悪い
4. アパートが大学から遠い
5. その他 ()

(2) 経済的なこと

1. 授業料免除がうけられない
2. 奨学金がうけられない
3. いいアルバイトがない
4. 親が送金するのがたいへんである
5. その他 ()

裏も書いてください。

アンケート用紙 (おもて面)

(3) 学習にかんすること

1. 大学の授業がよく分らない
2. 大学の授業がおもしろくない
3. 指導教官によく教えてもらえない
4. 学習時間が十分にとれない
5. その他 ()

(4) 日本語のこと

1. 日本語でコミュニケーションがよくできない
2. 講義の日本語が十分理解できない
3. 日本語を教えてくれる人がいない
4. 日本語の学習時間が十分にとれない
5. その他 ()

(5) 友だちや先生との人間関係のこと

1. 友だちが少くない (いない)
2. 日本人 (学生) とうまくつきあえない
3. 研究室やゼミの人間関係がよくない
4. 事務の人とうまくつきあえない
5. その他 ()

(6) アルバイトのこと

1. アルバイトしたいが、できない
2. いいアルバイトがない
3. アルバイトに時間がとられてしまう
4. アルバイト先の人間関係がよくない
5. その他 ()

(7) 就職・進学のこと

1. 大学・大学院を出てからどうするか、わからない
2. 就職先がみつからない
3. どの大学院がいいか、わからない
4. 就職や進学について相談する人がいない
5. その他 ()

(8) 生活習慣、大家さんや近所の人たちとの付き合いなど

1. 大家さんとうまくいっていない
2. 近所の人とうまくいっていない
3. 生活習慣で分からないことが多い
4. 日本での生活が自分にあわない
5. その他 ()

(9) 病気、精神的な不安など

1. 病気をもっているので心配である
2. 精神的に不安定な感じがする
3. 身体や精神の問題について相談できる人がいない
4. 高いので医者にかかれない
5. その他 ()

(10) いろいろな不満・苦情など

1. 教官にたいして不満がある
2. 事務の人にたいして不満がある
3. 大学のあり方にたいして不満がある
4. 日本社会にたいして不満がある
5. その他 ()

C「11. その他」に、どのようなことがありますか。思っていることを、できるだけたくさん、自由に書いてください。1～10の項目について詳しく書いてもいいです。